

## 平成26年度 臨床検査学ユニット研究活動状況

### 1. ユニットメンバー

若山 育郎、市村 輝義、花井 淳、後藤 きよみ、  
鍵弥 朋子、竹田 知広、大瀧 博文、荒川 裕也

### 2. 平成25年度活動報告

以下の各テーマに沿って、個人およびグループ研究(学外との共同研究含む)を行った。

<若山育郎>

・鍼灸の診療ガイドラインに関する研究

各学会による診療ガイドラインに鍼灸の記載があるかどうかを調査したうえで、記載があるものについては、最新のEBMに基づいたものであるかを検証する。

・全日本鍼灸学会学術大会の発表論文の出版バイアスに関する研究

全日本鍼灸学会学術大会で発表された論文がその後どの程度実際に雑誌等に掲載されているかを調査する。

<市村輝義>

・認知症(予防)の診断と臨床検査に関する研究と啓蒙  
認定認知症領域検査技師(認知症予防学会&日本臨床衛生検査技師会)の資格を獲得し、認定認知症領域検査技師認定試験ワーキンググループ委員および認定認知症領域検査技師講習会委員長として企画・運営をし、その啓蒙をした。(次年度継続)

認知症診断のための臨床検査(アミロイドβ、リン酸化タウ、頸動脈エコー、光トポグラフィーなど)の有用性について確認し、その教育をした。(次年度継続)

<花井 淳>

・各種疾患の臨床病理学的研究

経験した症例の病理学的検索を行い報告した。

<後藤きよみ>

・超音波診断装置を用いた検査の応用

組織エラストグラフィを応用した筋肉組織の硬度評価に関する研究

<鍵弥朋子>

・梅等の食品中成分が生体に与える影響について(和歌山医大食品機能講座との共同研究)

消化器細胞に与える影響について、実験継続中である。

・副甲状腺関連遺伝子についての研究

第37回日本分子生物学会年会にて発表した。

<竹田知広>

・血友病インヒビター新規免疫寛容療法の研究(奈良県

立医科大学小児科との共同研究)

・蕁麻疹の病態と血液凝固の関わりについての研究

allergy internationalに投稿した。(広島大学皮膚科との共同研究)

・喘息の病態と血小板についての研究

American Academy of Asthma Allergy and Immunology年次総会にて報告した。

(国立成育医療研究センター研究所 免疫・アレルギー研究部との共同研究)

<大瀧博文>

・トリプトファン代謝と感染免疫に関する研究

ウイルス性劇症肝炎マウスモデルおよびマウス敗血症モデルにおけるトリプトファン代謝の役割をBBA誌およびInfect Immun誌に報告した(岐阜大学との共同研究)。

・臨床的に稀に分離される菌血症起炎菌の臨床背景における検討

Leptotrichia trevisaniiにおける菌血症例を日本臨床微生物学雑誌に報告した(岐阜大学病院との共同研究)。

・細菌の簡易同定および薬剤耐性菌検査の効率化における検討

発色剤および抗菌薬含有培地を用いた簡易同定法および薬剤耐性菌検出の効率化について基礎検討および前向き検討を実施した(岐阜大学病院との共同研究)。

<荒川裕也>

・自己免疫性甲状腺疾患と病態感受性遺伝子における一塩基多型の探索

昨年度より継続中。平成27年度中に投稿予定。(大阪大学医学系研究科 予防診断学研究室と共同研究)

・副甲状腺関連遺伝子 psp の分子生物学的研究

in situ ハイブリダイゼーションに用いるプローブ作製のためにクローニングを行った。

・ALS多発地域における健康診断検体を用いた新規検査マーカーの検索

健康診断を行い、検体採取を行った。今後、この検体を用いて検査マーカーの検索を行っていく予定である。

### 平成26年度臨床検査学ユニット業績

<原著>

若山育郎. パーキンソン病と付け足し漢方. 和漢薬. 2014; 64 (4) : 13-14.

下市善紀, 春木淳二, 若山育郎. 「腰痛患者に対する鍼治療 日本で実施されたRCTのシステマティックレ

ビュー」に対するご指摘へのお返事. 全日本鍼灸学会雑誌. 2014; 64 (3) : 162-170.

若山育郎, 形井秀一, 山口 智, 篠原昭二, 山下 仁, 小松秀人. 病院医療における鍼灸 - 鍼灸師が病院で鍼灸を行うために. 日本東洋医学雑誌. 2014; 65 (4) : 321-333.

増山祥子, 若山育郎. WFAS Houston 2014 Acupuncture & Integrative Medicine Conference 参加報告. 鍼灸 OSAKA. 2014; 30 (3) : 122-124.

若山育郎, 石崎直人, 齊藤宗則, 鶴 浩幸, 深澤洋滋, 増山祥子, 山田昌紀, 西村理恵. 2014WFAS鍼灸国際シンポジウム (米国・ヒューストン) 参加報告 - 2016WFAS年次大会のつくば国際会議場での開催が決定 -. 全日本鍼灸学会雑誌. 2015; 65 (1) : 36-46.

Wakasa T, Nakamura M, Kagiya T, Taniguchi E, Sakurai T, Kakudo K. Loss of cellular cohesion in cytology composes a special subgroup of breast tumors - analysis of 37 cases. *Acta Cytol.* 2014; 58 (1) : 89-95.

Kono R, Nomura S, Okuno Y, Nakamura M, Maeno A, Kagiya T, Tokuda A, Inada K, Matsuno A, Utsunomiya T, Utsunomiya H. 3,4-Dihydroxybenzaldehyde Derived from *Prunus mume* Seed Inhibits Oxidative Stress and Enhances Estradiol Secretion in Human Ovarian Granulosa Tumor Cells. *Acta Histochem Cytochem.* 2014; 28; 47 (3) : 103-12.

Sakurai Y, Takeda T. Acquired hemophilia A: a frequently overlooked autoimmune hemorrhagic disorder. *J Immunol Res.* 2014; 320674. doi: 10.1155/2014/320674. Epub 2014 Mar 24.

Sakurai Y, Morioke S, Takeda T, Takahagi S, Hide M, Shima M. Increased thrombin generation potential in patients with chronic spontaneous urticaria. *Allergol Int.* 2015; 64 (1) : 96-8.

Ohtaki H, Ito H, Ando K, Ishikawa T, Hoshi M, Ando T, Takamatsu M, Hara A, Moriwaki H, Saito K, Seishima M. Kynurenine production mediated by indoleamine 2,3-dioxygenase aggravates liver injury in HBV-specific CTL-induced fulminant hepatitis. *Biochim Biophys Acta.* 2014; 1842: 1464-1471.

Hoshi M, Osawa Y, Ito H, Ohtaki H, Ando T, Takamatsu M, Hara A, Saito K, Seishima M. Blockade of indoleamine 2,3-dioxygenase reduces mortality from peritonitis and sepsis in mice by regulating functions of CD11b+ peritoneal Cells. *Infect Immun.* 2014; 82: 4487-4495.

大瀧博文, 大楠清文, 中山麻美, 米玉利準, 安藤航平,

宮崎崇, 太田浩敏, 古田伸行, 渡邊珠代, 伊藤弘康, 村上啓雄, 清島 満. 中心静脈ライン関連血流感染の判定における細断法を用いた中心静脈カテーテル先端培養の菌量および血液培養結果に関する後方視的な検討. *臨床微生物迅速診断研究会誌.* 2014; 24: 39-43.

米玉利準, 大瀧博文, 中山麻美, 安藤航平, 宮崎 崇, 太田浩敏, 古田伸行, 渡邊珠代, 兼村信宏, 伊藤弘康, 大楠清文, 村上啓雄, 清島 満. 血液培養好気ボトルより *Leptotrichia trevisanii* を分離した多発性骨髄腫患者における菌血症の1例. *日本臨床微生物学雑誌.* 2014; 24: 201-206.

#### <発表>

市村輝義. 臨地実習の課題と部会・協議会としての取り組み. 日本臨床検査教育協議会近畿中国四国部会. 天理市. 2014.6

小嶋啓子, 花井 淳. 上行結腸に発症した炎症性線維芽細胞性腫瘍の一例. 第103回日本病理学会総会. 広島国際会議場. 広島市. 2014.4.

花井 淳, 小嶋啓子. TUR後に発症した高度異形成を伴う慢性膀胱炎の一例. 第19回泌尿器腫瘍フォーラム. 市立堺病院. 堺市. 2014.12.

鍵弥朋子, 伊藤俊治, 畑島紀昭, 櫻井威織, 櫻井悠加, 椎崎和弘, 畑村育次. 副甲状腺関連遺伝子 Psp は精子形成を支配する Parathyroid gland related gene, Psp plays important roles in spermatogenesis. 第37回日本分子生物学会年会. 東京. 2014.11.

竹田知広, 海野浩寿, 森田英明, 斎藤博久, 松本健治, 松田明生. 血小板は恒常的に活性型 IL-33 蛋白を発現する. 第26回日本アレルギー学会春季臨床大会. 京都. 2014.4.

Takeda T, Unno H, Morita H, Arae K, Sugie M, Futamura K, Nakae S, Saito H, Matsumoto K, Matsuda A, Matsuda A. Platelets constitutively express interleukin-33 protein. American Academy of Asthma Allergy and Immunology Annual Meeting. Huston, USA. 2015.2.

Nakayama A, Ohkusu K, Ohtaki H, Furuta N, Ito H, Seishima M. Cost-Effective and rapid detection of Extended-spectrum  $\beta$ -Lactamase (ESBL)-Producing Gram-negative bacilli directly from clinical specimens: An improved algorithm for identification of Gram-negative and ESBL-Producing bacilli using CHRO Magar Orientation/ESBL 54th Interscience Conference on Antimicrobial Agents and Chemotherapy, Washington, DC, USA. 2014. 9.

太田浩敏, 宮崎 崇, 大瀧博文, 中山麻美, 米玉利準, 安藤航平, 古田伸行. ICT活動による適切な喀痰検体提出への取り組み. 第62回日本医学検査学会総会. 新潟市. 2014.5.

荒川裕也. DNMT1, DNMT3, MTFR, MTRR 遺伝子の多型が全ゲノムのメチル化と自己免疫性甲状腺疾患の予後に及ぼす影響の解析. 第9回日本臨床検査学教育学会学術大会. 東京. 2014.8.

城尾可奈, 荒川裕也, 野口依子, 岡崎葉子, 中町祐司, 林伸英. コリンエステラーゼ活性が極低値であった1症例の遺伝子解析. 第54回日臨技近畿支部医学検査学会. 神戸. 2014.9.

#### <その他>

若山育郎. 話題の臨床漢方ーパーキンソン病など. 京都漢方研究会. 京都薬科大学. 京都市. 2014.9

若山育郎. パーキンソン病と漢方. 第54回癒師のための北摂漢方フォーラム「右近塾」. 大阪医大健康科学クリニック. 高槻市. 2014.10

市村輝義. 認知症予防の基礎知識. 一般社団法人奈良県健康生きがいづくり協議会 認知症予防講座. 奈良市. 2015.3.

市村輝義. 東西両医学・医療の融合「心電図など“生体検査”で何がわかるか」. 第29回関西医療大学公開講座. 2014.10.

後藤きよみ. 東西両医学・医療の融合「画像診断検査（エコー検査）で何がわかるか。」第29回関西医療大学公開講座. 2014.10

鍵弥朋子. 病理検査と細胞検査. 平成26年度和臨技新人オリエンテーション. 和歌山市. 2014.4.

大瀧博文. 近畿地区の技師会活動状況と教育現場のこれから. 岐阜県臨床検査技師会・第5回臨床微生物部門研修会. 岐阜. 2014.12.

#### <受賞>

竹田知広. 第11回（2014年度）日本アレルギー学会学術大会賞